



地産地消 eleven (11か条)

ちさんちしょう イレブン

地産地消で日本を変えよう



11 Change

作り手から届く
小さなメッセージを
大切にしよう



1 Message

健康で豊かな暮らしをつくろう



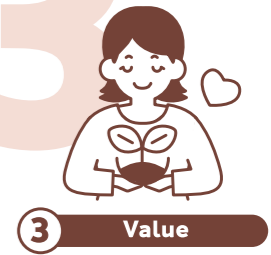
2 Well-being

活動を見える化しよう



10 Visualize

小さい価値を大切にしよう



3 Value

リアルな体験から
生きる実感を得よう



9 Experience

環境負荷を軽くしよう



4 Sustainability

どの地域でも進めよう



8 Everywhere

ローカルの魅力を
発見しよう



7 Discovery

新たな食料課題にも
対応しよう



6 Challenge

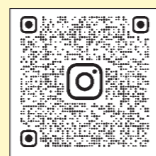
食料システムの
最前線として考えよう



5 Food systems

地産地消の身近な話題を
配信中!

Instagram ▶



YouTube ▶



(一財) 都市農山漁村交流活性化機構 (まちむら交流きこう)

<https://www.kouryu.or.jp/>

地産地消 elevenとは？

「地産地消」の活動が日本に定着して約30年。農林水産業の振興や地域活性化につながる取り組みとして、継続的に進められています。今、「地産地消」は、地域経済への貢献にとどまらず、私たちの暮らしや健康、さらには地球環境にもプラスの影響をもたらすものとして、再び注目を集めています。

一方、生産者は、食材に込めた「思い」や「願い」に、消費者がもっと気づいてくれることを望んでいます。これは、地域内での経済循環を促進したい、環境に配慮した生活スタイルを広めたい、地域のアイデンティティを築きながらローカルを基軸とした連携を実現したいという、新たな価値を提供しようとする思いです。

「地産地消」が生産者と消費者のコミュニケーションの中心にあり続けるために、地産地消のアップデートに向けた、「地産地消 eleven」(11カ条)を提案します。



ロゴマーク紹介

地元の特産物の野菜、肉、魚に愛情を持って欲しいという願いをこめてハートで表現。色合いは暖色系のグラデーションにし、地元の暖かさをイメージ。

1 作り手から届く 小さなメッセージを大切にしよう



地産地消とは、生産者と消費者の垣根を越え、身近な食・農・地域から届く新時代のメッセージを、消費者も自分事として感じ、考え、動き、支える活動です。

1 Message

2 健康で豊かな暮らしをつくろう



地産地消は、そこに住む人々のみならず、地域と関わる人々に、地域愛を育み、将来にわたり、心身ともに健康で豊かな暮らし、コミュニティと心の拠り所をもたらします。地域とのつながりを深め、その地域を大切にする、地域資源を次世代につないでいく活動です。

2 Well-being

3 小さい価値を大切にしよう



地産地消は、小さな作り手も大切にします。経済効率だけではない価値にも注目し、その土地で物を作り続ける喜びや励みにつなげます。作り手の喜びや地域への誇りに気づくこと、それが生産者の力の源になります。

3 Value

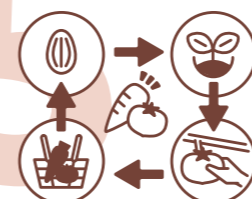
4 環境負荷を軽くしよう



地産地消は、世界的な都市化や気候変動が進む中、食料の輸送距離を縮め、安全・安心な生産活動で環境負荷の軽減に貢献します。有機農産物など自然に寄り添ったものをライフスタイルに取り入れてみませんか。

4 Sustainability

5 食料システムの最前線として 考えよう



5 Food systems

地産地消は、すべての農地を大切にし、自然災害や食糧危機が起こっても、日本の食料安全保障を最前線で支える、大切に身近な食料システムです。

7 ローカルの魅力を発見しよう



7 Discovery

地産地消は、その地域ならではの魅力と多様性を発見し、ローカルツーリズムにとっても最大の強みです。農作業を通じて育まれた景観、食にまつわる文化や風習、暮らしや建物などは、地域の宝であり、人を呼び込む資源になります。

6 新たな食料課題にも対応しよう



6 Challenge

地産地消は、地域で採れる食材や有機農産物を、学校給食や子ども食堂、食育活動などで活用します。それにより食品ロスの削減や資源循環、耕作放棄地の解消など、食を取り巻く社会課題に関わりを持ち、それらの解決策も推進します。

8 どの地域でも進めよう



8 Everywhere

地産地消は、都市でも実現できる活動です。市街地にある農的空間や体験農園などは、身近に農業や食に楽しめる場です。一方、農山漁村では、地産地消を進めることで、地域のつながりが深まり、地域の魅力が内外に伝わります。

9 リアルな体験から 生きる実感を得よう



9 Experience

地産地消は、買い物や食事、体験や参加などを通じて、日本の豊かな食や農林漁業を知り、「顔が見える関係」を築きます。そのリアルな体験から、「生きる」実感が得られます。

10 活動を見える化しよう



10 Visualize

地産地消は、生産者・消費者ともに、身近な活動を「見える化」し、コミュニケーションが図れます。食・農・地域の「今」に耳を澄ませ、現場から発信されるストーリーや思いを知り、共感したこと、参加・応援の気持ちを伝えましょう。

11 地産地消で日本を変えよう



11 Change

地産地消は今、若い世代の関心と参加を求めています。豊かな食材・農業・地域を将来にわたって持続するには、若者をはじめとした私達ひとりひとりの行動を変えていくことが必要です。